

8. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携事業：看護・社会福祉連携事業

1) 看護・社会福祉連携事業について

高知医療センターと高知県立大学は、医療・健康・福祉・栄養分野における交流連携を推進し、双方の実践、教育、研究の質向上を図るとともに、地域・社会への貢献を促進するため、平成 22 年 11 月に両組織間の包括的連携協定を締結した。これは、高知医療センター看護局と本学看護学部が、よりよい看護の実現を目指して平成 18 年から取り組んできた看護連携型ユニフィケーション事業を発展させたものである。現在はこの協定に基づき、全体を統括する包括的連携協議会の下に、健康長寿・地域医療連携部会、看護・社会福祉連携部会、健康栄養連携部会、災害対策連携部会の 4 部会を設置し、さまざまな連携事業を展開している。

このうち看護・社会福祉連携部会では、看護および社会福祉に関する連携事業として、①学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供、②基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力、③教員によるコンサルテーションの実施、④臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究、⑤県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催、⑥その他看護・社会福祉連携活動の実施、を行っている。

(1) 看護・社会福祉連携部会の委員および活動状況

平成 30 年度は、高知医療センター 18 名（看護局 7 名、地域連携室 11 名）、高知県立大学 9 名（看護学部 7 名、社会福祉学部 2 名）、計 27 名の部会委員で構成し、活動を推進した。また、高知県立大学側が部会長および事務局を務めた。

看護部会では、前年度 3 月の会議で立案した事業計画に基づいて事業を進めた。また、下記のとおり 2 回の会議をもち、適宜、事業実績と課題の確認を行った。

- ・ 第 1 回看護部会：11 月開催

 - 前期の事業実績および評価の確認、後期に向けての課題・活動計画の検討等

- ・ 第 1 回看護・社会福祉連携部会：3 月開催

 - 看護と社会福祉の連携活動の検討、事業実績および評価の確認、次年度の活動計画の検討等

(2) 看護部会における事業実績

事業計画に基づき事業を展開した。最終的な事業実績は表 1 のとおりである。

表 1. 平成 30 年度看護部会における包括的連携事業実績

<p>1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供</p> <p>1)学部生および大学院生の臨地実習</p> <p>学部生：ふれあい看護実習、看護基盤実習、急性期看護実習、慢性期看護実習、母性看護実習、小児看護実習、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、総合看護実習（小児・急性期・慢性期・助産看護領域）、看護管理実習（小児・急性期・慢性期・助産看護領域）</p> <p>大学院生：がん看護学実践演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、小児看護学実践演習Ⅴ、★家族看護学実践演習Ⅰ・Ⅱ（1回生）・Ⅱ（2回生）・Ⅲ</p> <p>2)大学院生および教員の臨床研修</p> <p>大学院生：緩和ケアカンファレンス・キャンサーボードへの参加（がん看護学領域、23回・のべ52名）、小児科医開催のカンファレンスへの参加（小児看護学領域、30回・のべ30名）、急性期領域のセミナー等への参加（クリティカルケア看護学領域）</p> <p>教員：緩和ケアカンファレンス・キャンサーボードへの参加（がん看護学領域、7回・のべ7名）、小児科医開催のカンファレンスへの参加（小児看護学領域、11回・のべ11名）、急性期領域のセミナーへの参加（急性期看護学領域）、なごやかフロア多職種カンファレンスへの参加（家族看護学領域、14回・のべ14名）、CNSとしての臨床研修（小児看護 CNS;4回、家族支援 CNS;15回）</p>
<p>2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力</p> <p>1)医療センターによる教育・研究支援</p> <p>(1)教育支援</p> <p>学部生：ナーシングカフェへの参加（2回・のべ6名）、インターンシップ（3回生36名）、ドクターヘリ見学および「ドクターヘリの運用とフライトナースの役割について」（4回生5名）、実践的知識獲得へのサポート：「医療安全について」（2回生82名）・★「医学的知識を活用した看護実践－心臓手術後の患者の回復を促進する看護介入」（3回生82名）・「感染管理について」（3回生82名）、急性期看護論ゲストスピーカー「クリティカルケアの場における死と看取り」（2回生82名）、★終末期看護援助論ゲストスピーカー「終末期にある患者と家族のケアの実際」（3回生82名）小児看護の魅力語る会（1～4回生9名）</p> <p>大学院生：クリティカルケア看護方法論Ⅱ特別講義「クリティカルケアにおける倫理的課題－臓器移植に焦点を当てて」（博士前期課程クリティカルケア看護学領域2名）</p> <p>(2)研究支援</p> <p>学部生：学部生看護研究における研究対象者の紹介(3題)、資料作成の協力(1題)</p>

大学院生：修士論文における研究対象者の紹介（4題）、博士論文における研究対象者の紹介（2題）

教員：教員の研究における研究対象者の紹介（4題）

2) 大学による教育・研究支援

(1) 継続教育支援 ※参加者数は医療センターのみ

研修「グループマネジメント」「ストレスマネジメント」「高齢者ケア1」「高齢者ケア2」への講師派遣、実地指導者リーダーフォローアップ研修への教員の参加（2回・のべ24名）、教員による若手看護師のキャリア・サポート「専門職としてのキャリア・デザイン」（8名）、マネジメントリフレクション（看護管理学領域、4回・のべ94名）、シミュレーション教育学習会（2回・24名）、シミュレーション研修「けいれんの初期対応」のトレーニングならびに勉強会;4Aフロア（小児看護学領域、4回・のべ27名）、シミュレーションを活用した病棟の学習会;5Bフロア（クリティカルケア看護学領域、2回・のべ9名）、ICUにおけるせん妄評価とせん妄ケア（クリティカルケア看護学領域、1回・7名）、★高齢者へのせん妄予防介入;認知症・精神疾患がある高齢者ケア検討会（クリティカルケア看護学領域・老人看護学領域、8回・のべ45名）

(2) 研究支援

看護研究4「看護研究を系統的に学ぶ」（3名）

3. 教員によるコンサルテーションの実施

QCサークル活動のコンサルテーション（看護管理学領域、8回・のべ109名）、CNS申請に向けてのサポート（クリティカルケア看護学領域1名、がん看護学領域1名）

4. 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究 共同研究（3件）

5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

1) 市民を対象とする共同事業

「赤ちゃん同窓会」企画・運営への学生・教員の参加

2) 専門職者を対象とする共同事業

★倫理研修、妊産婦救急救命基礎研修（BLSOプロバイダーコース）の運営（1回）、NBC対応力向上のための事例検討会/教育プログラムの検討

6. その他看護・社会福祉連携活動

★がん看護領域リソースナース会；がん看護外来の立ち上げについての相談

★は新規事業

(3) 事業評価および次年度への課題

看護部会では、両施設の連携の下で本年度も活発に活動が行われた。いくつかの新規事業もあったが、継続して行われ定着してきている事業も多い。ほとんどの事業は円滑に実施でき、それぞれに効果が見られており、次年度も継続して取り組む予定である。

看護・社会福祉連携部会としては、看護と社会福祉での連携活動が展開できていないことが課題である。3月の連携部会で連携活動を強化する対策を検討し、次年度は社会福祉部会で行っている事例検討会を社会福祉と看護で連携して実施することとなった。

2) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ

(1) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボの相互利用の概要

高知医療センター2階205に高知医療センタースキルズラボが開設されている。本学からは、医療センター看護局を通じて高知医療センターのイントラネットを使用して事前予約をおこなってから使用することになっており、本学からは、主に学部生実習などの目的で使用している。高知医療センターの医師や看護師も事前予約の上、本学に設置している設備および備品（シミュレータなど）を使用できる。申込書類は総務企画課に提出されるため、設備および備品の管理責任者は総務企画課から連絡があった場合、設置室、設備および備品を確保する。

(2) 高知医療センタースキルズラボの利用実績

平成30年度における高知医療センタースキルズラボ使用実績として使用人数は1,312名であり、そのうち本学の使用は7件で使用人数は113名以上（参加人数無記入が1件あるため）であった。この場を借りて台帳への使用人数の記入をお願いしたい。

(3) 高知県立大学スキルズラボの利用実績

本年度の高知医療センターによる本学施設の利用実績として、9月29日（土）に妊産婦救急救命基礎研修（BLSOインストラクターコース）が計画されたが、台風の接近により中止となった。病院前妊産婦救護に関するシミュレーションコース（BLSO）（当初計画：平成30年9月30日（日））は平成31年2月16日（土）に開催された。参加者数は41名であった。

(4) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ運営委員会

本学からの委員として、池田教授と井上講師が出席している。本年度は10月26日（金）に第1回スキルズラボ運営委員会が開催された。機器等の整備状況、使用実績および平成31年度の機器整備等予算について話し合われた。運営委員会での議論は、高知医療センターとの包括的連携協議会において報告された。

(5) 次年度の課題

本年度は昨年度に比べて、本学からのスキルズラボ使用実績が少なかった。本学教員、学生の積極的な利用が望まれる。高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ運営委員会も、もう少し頻回の開催が期待される。これらのことを進めることによって、両機関のスキルズラボの相互乗り入れを促進していく必要がある。

表. 看護学部から医療センターに対して提示している使用可能機材

No.	種別	物品名	個数	概要	注 釈	移動	演習目的別	教員
1	全身シミュレーター	フィジコ	1	各種アセスメントが可能。12誘導可		不可	検査手技、アセスメント	必要
2	全身シミュレーター	シムジュニア	1	中機能シミュレーター 学童モデル	専任教員による操作が必要	不可	アセスメント、チームトレーニング	必要
3	全身シミュレーター	シムベビー	1	中機能シミュレーター 乳児モデル	専任教員による操作が必要	不可	アセスメント、チームトレーニング	必要
4	全身シミュレーター	ナーシングアン・ケリー	4	中機能シミュレーター		不可	アセスメント、チームトレーニング	必要
5	全身シミュレーター	ALS シミュレーター	2	中機能シミュレーター 除細動可	シナリオ設定可	不可	アセスメント、チームトレーニング	必要
6	全身シミュレーター	シムマン3G	2	高機能シミュレーター	シナリオ設定可	不可	アセスメント、チームトレーニング	必要
7	全身シミュレーター	シムママ	1	中機能シミュレーター 産婦	専任教員による操作が必要	不可	アセスメント、チームトレーニング	必要
8	BLS 専用機	BLS シミュレーター	2	BLS 専用機	アルゴリズムが古い	不可	BLS 演習	不要
9	BLS 専用機	レサシアン	7	BLS 専用機		可	BLS 演習	不要
10	全身モデル	坂本くん	11	看護ケア用人形		不可	技術演習	不要
11	採血、注射	静脈採血トレーナー 男	8	肘	男女で血管の太さは同じ	可	技術演習	不要
12	採血、注射	静脈採血トレーナー 女	2	肘	男女で血管の太さは同じ	可	技術演習	不要
13	採血、注射	シンジョウ (静脈採血)	4	リアルであるが皮膚が硬い 手背		可	技術演習	不要
14	採血、注射	カンタンクン	20	装着型 採血、静脈注射モデル	主に静脈注射モデルとして使用	可	技術演習	不要
15	採血、注射	臀部筋肉注射モデル	5	据え置きモデル		可	技術演習	不要
16	採血、注射	おしり君	2	据え置きモデル		可	技術演習	不要
17	採血、注射	デンチュウクン	18	臀部への筋肉注射モデル 装着型		可	技術演習	不要
18	採血、注射	キンチュウクン	11	上腕への筋肉注射モデル 装着型		可	技術演習	不要
19	採血、注射	CV 穿刺、固定モデル	2	CV の固定法に関するモデル		可	技術演習	不要
20	採血、注射	動脈採血シミュレーター	1		説明用	可	説明用	不要
21	導尿	導尿モデル 男性用	3	装着可能な導尿モデル		可	技術演習	不要

22	導尿	導尿モデル 女性用	8	装着可能な導尿モデル		可	技術演習	不要
23	創傷ケア	キズクン	2	胸腹部の手術創を再現		可	技術演習	不要
24	創傷ケア	褥創ケアモデル	1			可	技術演習	不要
25	腹膜透析	腹膜透析モデル	3			可	技術演習	不要
26	人工肛門のケア	人工肛門ケアモデル	3			可	技術演習	不要
27	胃管	胃管挿入モデル	1		説明用	可	説明用	不要
28	気道管理、吸引	嚥下メカニズムモデル	2		説明用	可	説明用	不要
29	気道管理、吸引	吸引シミュレーター	1	肺が付属 挿管可	説明用	可	説明用	不要
30	気道管理、吸引	挿管モデル	1	挿管可	説明用	可	説明用	不要
31	気道管理、吸引	気道管理トレーナー	1	挿管可	説明用	可	説明用	不要
32	気道管理、吸引	Qちゃん	1	吸引メカニズムモデル 気管切開あり	鼻口腔の構造説明用	可	説明用	不要
33	気道管理、吸引	気管切開ケアモデル	1	気管切開のケア用 挿管可		可	説明用	不要
34	アセスメントモデル	ミスターラング	2	呼吸音聴診モデル	1台は作動不良あり	不可	技術演習	必要
35	アセスメントモデル	イチロウ	2	心音等アセスメントモデル	1台は作動不良あり	不可	技術演習	必要
36	アセスメントモデル	直腸診モデル	2			可	技術演習	不要
37	アセスメントモデル	耳アセスメントモデル	1	耳のアセスメントモデル		可	技術演習	不要
38	アセスメントモデル	乳がんモデル 装着型	2	体に装着できるタイプ		可	技術演習	不要
39	アセスメントモデル	乳がんモデル 設置型	3	据え置き型		可	技術演習	不要

表. 健康長寿センターから医療センターに対して提示している使用可能機材

	物 品 名	使 用 用 途
1	マルチ皮膚測定器 (上記接続)	水分蒸散量計 水分蒸散量の測定 皮膚角層水分量測定装置 皮膚角層水分量の測定 皮脂量計 皮脂量の測定 肌弾力計 肌弾力の測定 皮膚 pH メーター 皮膚の pH の測定 メラニン・紅斑測定 皮膚の紅斑及び色素沈着の測定
2	MoistureMeterD Compact	真皮水分量 = 浮腫の測定
3	経皮 O ₂ /CO ₂ ガスモニター	皮膚から漏れる酸素及び二酸化炭素量を測る
4	Vein Viewer	皮静脈の走行を皮膚上に投影する